

## 障害者や引きこもりの方と創る、農福連携の里山

私は27歳の時からICTに関わる仕事の傍ら、月2〜3回手伝っていた実家の米作りが、ストレス発散になることは気づいていました。そこで、職業柄PCがあれば何処でも仕事ができることもあり、障害者支援事業所を開所する際、「半農+半ICT」の新しいカタチにしました。

無償の農業体験受け入れは、実家にいる母のお手伝いになればと思い始めたのがきっかけです。受け入れを始めて1年ほどたった時、母は障害者の方が来るのが楽しみにになり、障害者の方は、本当にお祖母ちゃんのように慕ってくれて、支え合う関係ができてきました。広島弁で表現すると「年寄りの生きる知恵と、若い人の知識で、ええ具合にいくのう」です。

無償体験を受け入れ始めてから、あることに気づきます。障害者の方の中に、IT業務が得意な方がいたのです。その個性に気づいてからは、弊社で職場体験をしていただき、7人の一般就労をサポートしました。

また、ある日、某私立大学を出られ、引き籠りになっている青年の関係者の方からの相談がありました。

その相談の光景を見ていた一般就労した障害者のA君は、「あの人は、僕のように農業体験させてあげた方がいい」と言いました。「何故?」と聞くと、「土にふれあったら体力が付き、落ち着いたから」と言いました。

障害者や引きこもりの方全てを救うことはできませんが、「半農+半ICT」の新しいカタチでしたら、20人中1人は、社会復帰、現場復帰ができることを確信しました。昨年は、定員10名中5人が一般就労していきました。

現在まで月2回/人数約10人のペースで、年間延240人の農業体験が継続しております。



※オープン当初、資金不足の上、看板は、実母の手書きで、手作り看板です。